

大学院 看護学研究科看護学専攻(修士課程)

本大学院は平成23年4月の開設以来、4年目を迎えました。

平成25年度は9名の学生が修士課程を修了しました。内訳は修士論文コース8名、専門看護師(CNS)コース1名です。

本年度入学生より大幅なカリキュラム改正を行い、下記の2コース3分野10領域体制を採っています。

コース	分野	領域
修士論文コース	看護学基盤分野	基礎看護学 在宅看護学 看護管理学
	産業看護学分野	産業看護学
	看護学実践分野	母子支援看護学 急性看護学 慢性看護学 老年看護学 精神看護学
専門看護師(CNS)コース		急性看護学(急性・重症患者看護)

本年度の入学生は3名(うち1名は編入学生)でした。内訳は修士論文コース1名、専門看護師(CNS)コース2名です。本年度は初めて本学の卒業生が入学しました。本学卒業後、一定の社会人経験を経て、大学院に戻ってきてくれることを期待していましたので、非常に喜ばしいことです。今後もこのような学生が出てきて欲しいものと考えています。

本大学院では、社会人が勤務を継続しながら学習できるよう、平日の午後6時以降や土曜日に授業を行うほか、夏季休暇などを利用した集中講義も併せて行っています。また、仕事をしているなどの理由により、2年間の標準修業年限で修了が困難な学生に対して、長期履修制度(入学時から3年間)を設けています。

現在は、17名の学生が仕事や家庭と両立しながら、看護医療分野でリーダーシップを担う高度専門職業人や高度な専門知識を備えた教育・研究者を目指して、本大学院で勉学に励んでいます。



河野啓子賞、宮崎徳子奨学金について

平成25年度に学生の学修意欲及び社会貢献意欲を高め看護専門職の育成に資することを目的に、「河野啓子賞」「宮崎徳子奨学金」が設立されました。「河野啓子賞」は、本学開学にあたり多大な功績のあった初代学長河野啓子先生からの寄付金をもとに、本学学生の模範となる卒業予定者を表彰いたします。また、「宮崎徳子奨学金」は、現学長補佐(前学長・学生支援センター長)の宮崎徳子先生の寄付をもとにした奨学金が学業成績優秀者へ給付されます。

今年度の河野啓子賞表彰については平成27年2月に授与式を予定。宮崎徳子奨学金授与式は、去る6月27日(金)に行われました。



河野啓子賞受賞者



宮崎徳子奨学生

本年度学位記授与式 平成27年3月10日(火)四日市都ホテルにおいて挙行する予定です。

四日市看護医療大学

四日市看護医療大学学報 No.8

[発行日]平成26年12月20日 [発行]四日市看護医療大学 庶務課
〒512-8045 三重県四日市市萱生町1200 TEL.059-340-0700 FAX.059-361-1401 <http://www.y-nm.ac.jp/>

本学の看護基礎教育のあり方

四日市看護医療大学学科長 豊島 泰子



最近の医療をとりまく環境は、患者のニーズに応じた病院・病床機能の役割分担、在宅医療・在宅介護の推進など、医療が病院中心から地域・在宅へとシフトし、看護職の果たす役割がますます大きくなっています。看護職の養成機関である看護系大学数は、2014(平成26)年226校となり、今後も看護系大学が増加することが予想されます。

今年8年目を迎えた本学は、2012(平成24)年度以降の入学生から新カリキュラムを適用しています。教育課程は、5つの区分(1.看護を实践する、2.人とつながる、3.健康とつながる、4.社会とつながる、5.未来につながる)と7つの教育目標により編成しています。その5つの区分、7つの目標に応じた授業科目を組み、学年別の到達目標を掲げています。

1年次は、人間を理解するための教養科目や「人体のしくみと働き」について統合体としての人間と健康について学修をします。「基礎看護学」の講義では、①人間とは、②環境とは、③健康とは、④看護とは何かという看護学の基礎となる概念や看護の機能と役割について学修し、個々の対象の健康問題解決に必要な看護技術を学修し、基本的な実践能力を身につけていきます。その知識・技術の上に、小児・成人・老年・母性・精神・在宅・地域

看護学などの概論や援助方法について学修します。看護学は、看護実践の場を対象としているため実践の学問であるといわれ、学問体系(知識)と実践体系(技術)の両面を持ち合わせています。質の高い看護実践は看護師の専門知識に裏打ちされた看護技術力によるところが大きいと私は考えます。近代看護の創始者であるといわれるナイチンゲール(Florence Nightingale, 1820~1910年)は、『看護覚え書』で、看護の技術を“art”と表し、看護の実践で求められるのは、単なる看護行為だけではなく、観察技術、科学性、創造性などさまざまな要素を含めた看護技術サービスの提供であると記しています。学生は、3年次後学期での臨地実習を通して、それぞれの医療の現場で、看護の専門知識・技術を磨きながら質の高い看護実践ができるよう学修しています。

平成23年3月11日「大学における看護系大学人材養成検討会」では、「今後、すべての看護師等には、主体的に考え行動することができ、保健、医療、福祉等のあらゆる場において看護ケアを提供できる能力を、生涯を通じて獲得していくことが求められている。」と報告しています。本学では、1年次前学期・後学期のセミナー教育において、特に少人数制で学生が生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢や方法を身につけることができるようにしています。3・4年次の看護研究を通して、看護学を体系づけて学習し、生涯を通じてキャリア発達ができるよう看護を創造的、主体的に実践できるよう支援しています。

また、本学は大学院看護学研究科看護学専攻(修士課程)を開設していますので、修士課程で、看護の専門性の探求や認定看護師や専門看護師等のキャリアを積み上げ、医療の現場で看護の質の向上に貢献できる看護の専門職として成長されることを期待しています。教職員一同、看護の専門職として多くの学生が巣立っていけるよう支援したいと考えています。関係者の皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成26年度 四日市看護医療大学・大学院

入学式



平成26年度四日市看護医療大学・大学院入学式が挙行されました。
平成26年4月2日(水) 本学8期生及び大学院4期生の入学式が行われ、当日は、四日市市副市長をはじめ、四日市市議会議長、四日市市教育委員会教育長、市立四日市病院長、副院長・看護部長、三重県看護協会副会長、四日市市八郷地区連合自治会長の来賓の方々にもご臨席いただき、教職員、ご家族の方々も参列のもと学部生110名、院生3名の新入生が新しい学生生活へとスタートをきりました。式典では、丸山学長からの入学許可宣言に始まり、学長告辞・来賓祝辞をいただき、学部生代表の星野仁美さん、院生代表の小久保雅さんが、これからの学生生活に向けての入学宣言を新たな決意で述べました。

教員からのメッセージ

精神看護学 講師 大西 信行

3年生の後期から臨地実習が始まり、学生は、本格的に患者さんと接することになります。看護学は「実践の学問」ですが、今までの講義で学んだことを踏まえ、臨地実習で看護のすばらしさを知ることができます。

看護は、知識・技術を統合して実践できることが求められ、学生は、患者さんにとってどのような看護が必要か一生懸命に考えます。しかし、学生の自己満足では、質の高い看護には繋がりません。真摯に患者さんと向き合い、患者さんの思いを聞くことで、初めて質の高い看護ができるようになると思います。

大学で学ぶ期間は4年間に過ぎず、看護の専門的な部分までは深く学ぶことはできません。しかし、講義、臨地実習での学びが、自身の成長に繋がっていることは間違いありません。看護学は、一生学び続ける学問です。学生時代に看護のすばらしさを知った、あの生き生きとした笑顔が、いつまでも続くことを願っています。



学友会 新入生歓迎会

平成26年4月4日(金)、今年も新入生歓迎会が実施されました。新入生歓迎会は、大学生活が充実したものとなるためのきっかけづくりとして、学友会の主催により、毎年、4月のオリエンテーション期間中に開催されます。当日は、クラブ・サークルの紹介、入部募集、美味しい料理に舌鼓を打ちながら、新入生同士や先輩との親睦を深め、和やかに歓談いたしました。



教育後援会役員会・総会

5月31日(土)、本学において、平成26年度教育後援会役員会・総会が開催されました。
当日は、森真人会長をはじめ10名の役員、大学側は、丸山学長、豊島学科長、山本支援センター長、事務局長を顧問とし、事務局を含め20名程の小規模な会議となりましたが、森会長のご挨拶で始まり、昨年度の事業報告および決算報告、役員を選出、平成26年度の事業計画および予算案について審議され、すべて承認をいただきました。また、大学からは、昨年度の国家試験結果、就職状況、クラブ活動などの報告をさせていただきました。
また、質疑応答の時間を設け、参加された保護者の方々から質問をいただきました。やはり授業、実習に関する質問が多いようで、教育後援会顧問である学長、学科長より直接ご回答させていただきました。その他にもさまざまな意見交換がなされ、内容の充実した有意義な会になりました。



保護者懇談会

9月27日(土) 平成26年度 教育後援会主催保護者懇談会開催

今年度教育後援会主催の「保護者懇談会」、9月27日(土)に本学で開催されました。
全体会では、豊島学科長より本学の教育の取り組みについて説明があり、続いて山本学生支援センター長より学生生活についての説明、その後の質疑応答では、国家試験関連については山本学生支援センター長、海外研修については、今年度引率されたカーク図書館長より、また就職状況、アパートなどに関することは事務局より回答させていただきました。後半では、三重県健康福祉部医療対策室西崎水泉さまより、「いまどきのナース―三重県における看護職員の状況から―」のテーマで講演をいただきました。終了後、学生食堂にて昼食を兼ねて懇親会が行われ、保護者と教員、あるいは保護者同士が和やかな雰囲気の中、活発に交流する場面が見受けられました。
午後の部では、アドバイザーの教員による個別面談が行われました。個人面談では、教員から学業を含めた現状や今後のアドバイスなどを聞くことができたようです。
今後も保護者の方々にとって有益な情報を提供できる保護者懇談会にしていきたいものです。



オープンキャンパス

平成26年度オープンキャンパスが、夏休み期間中の7月19日(土)、8月4日(月)、8月24日(日)に実施されました。今年度も三重や愛知を中心に東海地区から多くの高校生や保護者様にご参加いただき、参加者数の合計が昨年を上回る536名となりました。また、参加者の中には、沖縄、熊本、島根、兵庫など遠方地域からの参加もあり、本学への関心の高さがうかがわれました。
当日の内容として、午前中の全体説明会では、四日市市健康福祉部長様から本学への支援制度などについてのお話をいただき、続いて大学紹介DVDの視聴、入試説明を行いました。その後は、学生食堂に移動してバイキング形式の昼食で学食体験、午後は、模擬講義、看護体験実習、施設見学など自由にイベントに参加いただき、大学の雰囲気を感じていただく時間と

しました。また、学生ホールでは入試相談コーナーや在学生と直接話ができる「先輩と話そうコーナー」を設け、入試や奨学金、大学生活などについて、熱心にスタッフの話に耳を傾ける参加者の姿が多く見られました。
参加いただいた方のアンケートを見ますと、「実習体験では看護に関わる貴重な体験ができ、勉強になった」、「模擬講義がわかりやすく、良かった」、「対応されたスタッフが親切で、説明がわかりやすかった」などの感想があり、概ね満足いただけたのではないかと思います。来年度も更に充実したオープンキャンパスにできるよう努めていきたいと考えます。



防災訓練

平成26年9月12日(金)、東海地区に大規模地震災害が発生したことを想定し、一連の防災行動の把握を目的に防災訓練を実施しました。
オリエンテーション直後の11:30から始めた訓練には、学生、教職員、合わせて300名以上が参加し、緊急地震速報を受信した際の避難訓練や安否確認、また、実際に避難生活を送る上での必需品(食料や水、電源、情報収集用の機器等)を準備し、避難生活環境の構築や避難生活を体験する訓練を実施しました。
今回の訓練は大規模地震による災害を想定したものでしたが、今後は他の災害を想定した訓練や救助訓練などにも取り組んでいきたいと考えています。



教職員研修の活動について

平成26年度FD(Faculty Development)活動について

FD委員会委員長 福原 隆子

本委員会は、授業の方法をはじめとした教育活動の更なる改善を図るために、授業評価アンケートの実施や教職員を対象とした研修会の開催などの活動を行っています。

近年、高等教育のユニバーサル化、グローバル化が急速に進展する中で、生涯学び続け主体的に考える力をもつ人材を育成することが、大学教育に強く求められるようになってきています。本学におきましても、学生の“主体的に学び、考え、実践する力”を培うために、「学生参加型授業」「双方向型授業」「問題解決型学習」等の授業方法を取り入れ、「アクティブ・ラーニング(能動的学修)」の推進に努めております。そのため本年度の『学生による授業評価アンケート』では、アンケートの設問内容を刷新し、能動的学修の視点から授業を評価し、その成果となる学生の事前事後学習にかけた時間、自学自習方法等の「教室外学修」状況も合わせて把握しました。また、アンケート終了後、昨年度までは集計結果を各担当教員に返却する迄で留まっておりましたが、今年度より、各担当教員には集計結果に対する改善点などの所見票(リフレクションペーパー)を提出していただき、集計結果と合わせて閲覧資料として図書館に備え置き、本学学生および教員に公開していくこととなりました。学生と教員が結果を共有し、共に授業改善に取り組んでいける実効性のある授業評価アンケートを実施し、全学的な教育の質向上に努めてまいりたいと考えております。

FD研修では、7月に山梨大学・日永龍彦教授をお招きし、「大学の質評価」をテーマに講演会を開催致しました。自らの活動を点検・評価し、独自の方法で大学の質を自ら高めていくことの大切さについて認識を新たにすることができました。

学生支援およびアドバイザー制度について

学生委員会委員長 久米 龍子

年2回の新学期オリエンテーション時に、日常生活における健康の自己管理、防犯対策の重要性について説明を行い、学生の意識が高まるようにしています。アドバイザー制度は学生の個別的問題について必要時に担当教員が相談に応じるものです。学生との面談を通して問題解決への支援を行っております。この他に学生相談室、保健室が設けられており、個々の学生の支援に当たっております。

今年度は学生生活調査を行い、学生が大学生活をどのように過ごしたいのかを把握しました。調査の結果は学生に示されるとともに、学生支援体制の更なる充実のために活用されます。また国家試験対策については、学年ごとに学習支援を計画し実施しています。

これからも学生が健康で充実した大学生活を送れるように様々な制度の充実を図って参りたいと考えております。

平成26年度 ハラスメント対策研修会

ハラスメント対策委員会委員長 山本 美佐子

本学では、毎年教職員を対象にハラスメント防止に向けて研修会を行っています。

今年度は、7月23日に「こんなこともハラスメントに!?」事例を通して留意点を学ぶ」をテーマに、名古屋大学ハラスメント相談センターの中澤末美子先生を講師にお招きして講演会を実施しました。目的は、ハラスメント防止の観点から、他大学のハラスメント対策や教職員が学生に対応する上での遭遇する問題を共有し、本学での教職員の学生への対応のあり方を一人ひとりが考えることでした。40名の教職員が参加し、事例や対応など具体的な内容で、ハラスメントに対して再認識し、今後の対応にヒントを与えていただきました。

これからも具体的・実用的内容の研修を継続し、本学でのハラスメント防止に向けた対応を考えていきます。

事務職員研修について

事務局長 三宅 真一

本学の事務職員研修は、「コンソーシアム三重」*の新しい事業として実施しています。これは、コンソーシアムに所属する高等教育機関の教職員研修を相互に開放するというものです。今回は、8月7日・8日に「アカデミックハラスメント防止」と「私立大学の財務と労務管理」の2つのテーマで実施し、他の大学からもご参加いただきました。大学でハラスメントが起きる背景と対策について理解を深めました。また、私立大学に求められる「教育の持続性」の意味とそれを支える「教育水準の維持・向上」、「収支均衡」、「予算主義」の3つの基本原則について学びました。

*三重県の私立の高等教育機関のネットワーク組織。平成26年度から教職員研修事業などの活動を開始している。

社会貢献活動

●みえアカデミックセミナー 2014 (2014.7.29)

『手術後の回復促進効果 ～安静の制限がなければ動かしましょう～』 杉崎 一美 教授

平成26年7月29日(火)、三重県総合文化センター文化会館レセプションルームにおいて「みえアカデミックセミナー2014」の公開セミナーが開催されました。

「みえアカデミックセミナー」は「心豊かな人生へのアクセス」という全体テーマの下、三重県内の高等教育機関と三重県生涯学習センターとが主催し、各校がそれぞれの特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーを毎年夏季に開催するものです。今年で20回目の開催となりました。

本学は7回目の参加となり、今回は杉崎一美教授が「手術後の回復促進効果～安静の制限がなければ動かしましょう～」というテーマで講演を行いました。

手術後、痛みを緩和しながらベッド上で体を動かすことや、早期に歩行することは回復促進に様々な効果をもたらすことを分かりやすく説明し、手術後の早期体動の意義と歩行への進め方について具体的に紹介しました。

杉崎一美教授の穏やかな口調に会場内は終始和やかな雰囲気にも包まれ、約70名の方々が熱心に聴講されました。



●平成26年度四日市看護医療大学公開講座 (2014.7.27)

『こどもをみんなで育てましょう』

講演 「祖父母の孫育て」 山中 和子 エガリテ大手前理事

体験 「家庭での育児方法」 大平 肇子 准教授



平成26年7月27日(日)じばさん三重5F大研修室にて、平成26年度四日市看護医療大学公開講座『こどもをみんなで育てましょう』を開催しました。

山中和子先生の講演では、孫育てのルールや育児グッズの紹介など最新の育児事情について紹介がされました。参加者からは、「現在の育児事情について勉強になった」「今後も愛情をもって子、孫に接したい」との意見をいただきました。

また、大平肇子准教授らによる「家庭での育児方法」についての講演、デモンストレーションを含めた育児支援体験も大変好評でした。

こちらには「普段では知りえない情報が満載で、今後に活かしたい」と大変ありがたいご意見をいただきました。

平成26年度 臨地実習について

実習委員長 山本 美佐子

REPORT



今年度の臨地実習は、4年生は、本学最後となる旧カリキュラムによる各領域実習が7月で終了し、8月からは選択科目の助産学実習が実施されました。2年生は、9月に新カリキュラムとしては2年目、学生にとっては初めての臨地実習となるコミュニティケア実習、基礎看護学実習Iを行いました。学生は、期待と不安そして緊張の中、各施設の指導者の方々の丁寧な指導のもと、それぞれの学びを得、後学期の授業に取り組んでいます。3年生は、新カリキュラムでの初めての実習となる成人(慢性・急性)・

老年・小児・母性・精神・在宅看護学の各領域の実習が9月16日から平成27年3月6日まで行われます。これらの実習は、看護に必要な知識と実践能力を身につけるとともに、人間としての自己の成長を目指しています。学生は、教員や実習指導者の指導やアドバイスのもと、日々の学習に加えて長丁場の実習を乗り切るための自己の心身の健康管理にも留意しながら、それぞれの目標の達成に向けてがんばっています。



臨地実習の報告(これまでの学びより)

実習体験記(地域看護学実習Ⅲ)

加藤 志野〈4年生〉

地域看護学実習Ⅲ(在宅看護学)で私が一番驚き、気づかされたことは、利用者さんとその家族の力強さです。つい学生は、問題志向型になってしまうのですが、利用者さん、そしてその家族にとっては自宅での療養、そしてそれに伴う介護が負担ではなく生活の一部であるということでした。よってそこでの訪問看護師の役割は医療の専門職としての知識を普及すること、そしてあとはその家族に寄り添うことだと学びました。

最後に、約一年間の実習を終えられたのには周りの友人、先生方、そして家族が支えてくれたからだと思います。美味しいご飯を毎日用意してくれること、きれいに洗って畳まれた洋服を毎日着られることなど普段は当たり前と感じていたことに感謝の気持ちがわきました。

実習体験記(成人看護学実習)

沖 和明〈4年生〉

私はこの成人看護学実習で、様々なことを学ばせていただきました。

慢性・終末期では、患者さんの心情を受け止めるのも辛く、受け止めた上で相手と接することが難しかったです。ご家族の方とお話させていただいた機会があり、自宅のことを聞かせていただき、ご家族の協力も欠かせないと感じました。

急性・回復期では、複数の患者さんを受け持たせていただき、患者さんに合ったコミュニケーションをとることが重要だと感じました。手術前に患者さんとお話をして、とても不安を抱えていた。お話を聞いた後は「ありがとう。心が軽くなったわ」とおっしゃっていて、心に寄り添うことも重要だと感じました。

実習で学ばせていただいたことを看護師になっても忘れずにやっていこうと思います。



海外研修

8月3日(日)▶16日(土)



本学では、平成20年3月にアメリカのカリフォルニア州立大学ロングビーチ校との学術交流協定を締結し、毎年約30名の学生が同校を訪れて海外研修を実施しています。この海外研修のプログラムは、英語を学ぶ学術研修とアメリカの看護について学ぶ看護研修から構成されています。今年も、2年生30名が8月3日から8月16日までの約2週間、カリフォルニア州ロングビーチ校での海外研修に参加しました。生活スタイルや習慣も異なる生活文化を肌で感じるとともに、海外ならではのよりよい友情関係を築くことが出来たようです。



今回の海外研修で多くのことを学んだのですが、その中でも現地で働く日本人看護師である森口博子さんによる講義が印象に残っています。森口さんの講義では、アメリカの看護の歴史や日本の看護の考え方との違いなど多くのことを教えていただいたことで、改めて日本の看護の法律や現状について考えるよいきっかけとなり勉強になりました。ほかにメジャーリーグ観戦や本場のディズニーランド観光などたくさん思い出をつくることができ、充実した貴重な2週間でした。本当に楽しかったです。

2年生 蟹江 祐一郎



私は今年の夏、海外研修に参加し、アメリカと日本の医療や看護、文化の違いなどを学ぶことができました。英語が苦手な私は、海外研修に参加できることが決まってからも不安でいっぱいでした。海外研修初日に思ったことは、「空気が乾燥していて日差しが強い!みんな早口で何言ってるかわからない!」。しかし、毎日の英語の授業や現地の人との関わりを通して、少しずつ耳が慣れてきて、英語でのコミュニケーションの楽しさを感じることができました。また、施設見学や講師の方々の講義を通して、アメリカと日本の医療・看護の違いを学び、日本の看護の良さを改めて知ることができました。短い期間でしたが、日本語の通じる人は海外研修に来ているメンバーだけということもあり、みんなで助け合い、友情を深めることができた2週間でした。

2年生 阿部 ひさか



平成26年度 海外研修レポート 准教授 萩 典子

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の海外研修に学生の引率として参加しました。2週間ほどの日程でしたが、学生と大学のドミトリに滞在し、貴重な時間を過ごすことができました。

今年のロサンゼルスはメキシコからの海流や風の影響で、例年よりも湿気が多く、気温も高いと説明を受けましたが、ロングビーチは朝夕の気温は20度をきり、日中は30度近くになっても湿気がなく、まるで高原で過ごしているかのような快適な気候でした。学生は毎朝、午前中の英語クラスを受けるために15分ほど大学の校舎まで歩いて行くのですが、爽やかな風とユーカリから漂う香りの中で快適に通学の時間を過ごすことができました。

今年からカリキュラム変更の関係で研修が3週間から2週間に短縮されましたが、研修の内容は大きな変更はなく、英語クラス、病院や施設見学、看護特別講義など2週間のなかに凝縮された形で様々な研修が計画されていました。そのためフリーな時間は午後3時頃から門限の午後8時までの時間と、たった1回の週末のみでした。

普段大学の中で見ていた学生は、眠さやだるさを抱えている姿が目立ち主体的に活動するというよりは、目の前の課題をやることに精一杯で余裕なく過ごしているような印象でした。ところがロングビーチでの学生は、朝の集合時間や英語クラスに遅れる学生もなく、朝から目は輝き今日はこれをするんだというように、日々目的をしっかりと持って生き生きと過ごしていました。決められたスケジュールも、びっくりするほど積極的で、自らが学ぶという姿勢で取り組んでいました。

フリータイムは毎日少ない時間を計画的に活用し、ダウントウン、セカンドストリート、シールビーチ、ショッピングなどに出かけました。私は静かにゆっくりとドミトリで過ごす決めていましたが、学生がいつも誘ってくれて、足手まといになりながら学生にくっついていろいろと活動しました。その間に学生の生き生きとした姿に触発されて、私自身もまだ力があるんだ、何でもできる、いろいろやってみようという気持ちになってきました。私の湿布を貼った姿や、靴ずれした足を学生は毎日気遣ってくれました。

この研修で学生が目標を持ったときに発揮する素晴らしい力を発見するとともに、これからも学生たちが自分たちの力を存分に発揮できるような支援を考えて行きたいと感じました。この海外研修で私に力をくれた学生に感謝したいと思います。

よんよん祭

2014.10.
25日 > 26日

テーマ
絆 -3年後の私たち

今年度で8回目を迎えた本学大学祭は、「よんよん祭」として、四日市大学と合同で10月25日(土)、26日(日)に行われました。今年度のテーマは「絆-3年後の私たち」。当日は、模擬店、ステージイベントのほか、小さな子どもたちを対象とした縁日形式の「ちびよん」が開催されました。



今年度は、実行委員長として大学祭に参加をさせていただきました。よんよん祭は、四日市大学との合同で行われますので、大学間の調整が重要となります。お互いの状況を理解しながら、大学祭成功に向けて送った日々は、本当に大変でしたが、とても充実していました。また、入学して間もない1年生の実行委員も本当に頑張ってくれました。何より、大学祭に参加していただいた地域の方々、関係者の皆様にお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

大学祭実行委員長 2年生 岩田 知穂

よんよん祭として6回目となりますが、今年も無事に終わることができました。本学からは模擬店4店舗、展示2団体、イベント1団体が出展。2日間にわたり大学祭を盛り上げたいと、看護大学の特色を生かした内容や、幅広い年齢層の方が楽しめる内容など、それぞれが工夫を凝らして取り組みました。当日は、学生のほかにも、卒業生、地域の方々、大変多くの方々にご参加いただきました。ありがとうございました。

学友会会長 2年生 猪飼 ひかる

平成25年度 国家試験・就職進路状況

第4期卒業生(平成26年3月卒)

■ 保健師・助産師・看護師国家試験合格状況

平成25年度国家試験対策として、4年生には、年間12回の国家試験対策模試を始め、夏季・秋季・冬季・直前期の国家試験対策特別講義、ガイダンスなどを実施しました。また、3年生対象にも夏季に特別講義を実施し、学力の定着と国家試験への意識を高めるなどのバックアップ態勢を整えています。

平成25年度 国家試験合格率

- ◆ 看護師: 98.3% (受験者115名/合格者113名)
- ◆ 保健師: 79.3% (受験者111名/合格者88名)
- ◆ 助産師: 100% (受験者6名/合格者6名)
- ◆ 看護師・保健師・助産師3資格同時取得者: 6名

■ 就職・進路状況 本学の教育が就職を後押しし、高度医療対応の病院や大学病院などに100%の就職を果たしました。

平成25年度就職状況は、国家試験合格者全員が、看護師、助産師、保健師として就職を決め、その多くは、大学病院、公立病院を中心とした総合病院に就職する結果となりました。これは、保健・医療・福祉サービスへの社会的ニーズの増大を背景に、それぞれの現場でより高度な専門教育を受けた人材の需要が高まっていることを反映しているといえます。

地域的には、三重・愛知県内の病院施設に約9割が就職しており、過去4年間では、三重県内に255名、四日市市内の病院等に179名となり、看護職の充足率が全国平均を大きく下回っている三重県や四日市市からの強い要望に対し、本学はその役割を十分に果たしていると自負しています。

また卒業生の約半数が実習病院への就職をしており、本学の教育と就職が密接にかかわっていることが裏付けられる結果となりました。



就職説明会の様子(学内教室に於いて)

平成25年度 就職・進路状況(平成26年3月卒業生)

(単位:人、%)

項目	卒業生	就職			進学			その他
		就職希望者	就職者	就職率	進学希望者	進学者	進学率	
合計	117名	109名	109名	100%	1名	1名	100%	7名

平成25年度 就職先(平成26年3月卒業生)

施設名順不同

地域別就職先			
三重県	市立四日市病院・伊勢赤十字病院・尾鷲総合病院・亀山市立医療センター・済生会明和病院・富田浜病院・津生協病院・三重県立総合医療センター・いなべ総合病院・鈴鹿中央総合病院・三重大学医学部附属病院・三重中央医療センター・四日市羽津医療センター・朝日町役場(保健師)	静岡県	榑原総合病院・浜松医療センター
愛知県	愛知医科大学病院・海南病院・豊田厚生病院・あいち小児保健医療総合センター・協立総合病院・小牧市民病院・千秋病院・中部労災病院・名古屋医療センター・名古屋掖済会病院・名古屋市立大学病院・名古屋市立東部医療センター・名古屋セントラル病院・藤田保健衛生大学病院・藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院	滋賀県	大津赤十字病院
三重県・愛知県以外			
東京都	東京慈恵医科大学病院葛飾医療センター・東京女子医科大学病院・日本医科大学付属病院	兵庫県	姫路聖マリア病院
神奈川県	北里大学病院・横浜旭中央総合病院		
岐阜県	大垣市民病院		